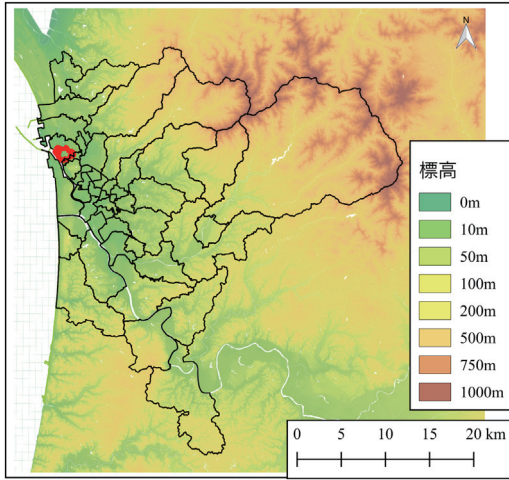


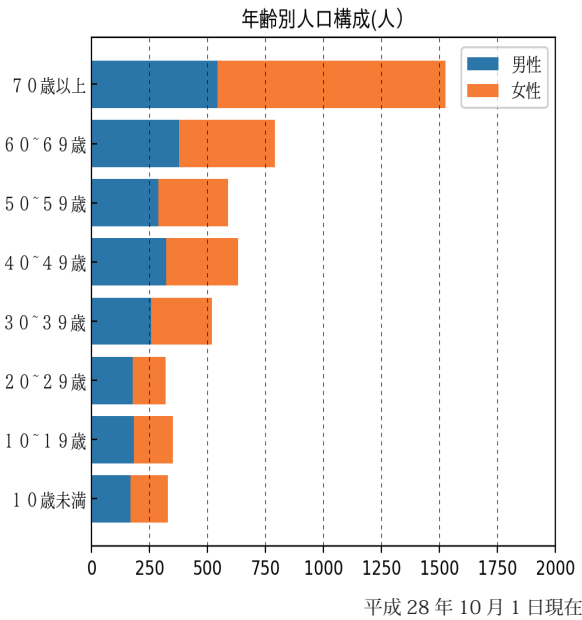
# 08：土崎小学校区

## 位置図



## 1 居住者の現況

人口	5,041 人
世帯数	2,124 世帯
65 歳以上人口	1,958 人
10 歳未満人口	326 人



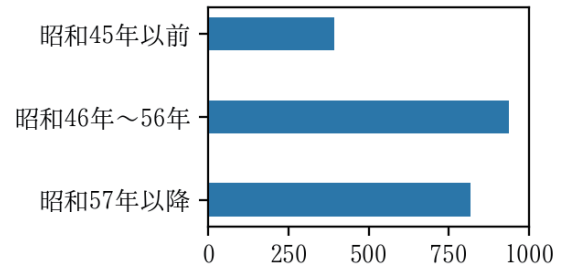
## 2 建物に関する指標

### ■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	2150
非木造建物	378

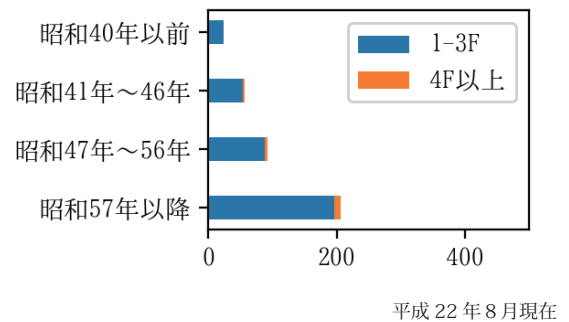
### ■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	819
昭和46年～56年	938
昭和45年以前	393



### ■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	197	9
昭和47年～56年	88	4
昭和41年～46年	54	2
昭和40年以前	23	1



## 自然的・社会的基本指標

旧雄物川の河口付近に位置している。地形は平坦で、地盤は軟弱な沖積層が分布している。1983年日本海中部地震では旧雄物川沿いで液状化が発生しており、秋田港で波高3m程度の津波が観測されたが、津波の浸水による被害は発生していない。65歳以上人口は約39%である。昭和57年以降の建物は全体の41%である。旧雄物川の河口付近に位置している。

### 3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

#### ■ 洪水

指定河川	(該当なし)		
浸水面積 (%)			
最大浸水深 (m)			

#### ■ 土砂災害

##### \* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	0	該当箇所なし
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	0	該当箇所なし

##### \* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

#### ■ 地震および津波

##### \* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度 (計測震度)	震度 6 弱 (5.91)
震度 6 強以上となる面積 (%)	9
液状化危険度ランク	4
建物全壊率 (%)	3.3

##### \* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が運動した場合)

浸水面積 (%)	56.8
最大浸水深 (m)	10.8

### 4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

#### ■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	9
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	5

#### ■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	5
こども園	1
幼稚園	0

#### ■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	2

#### ■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	0
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

### 5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

#### ■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	85
防火水槽 (箇所)	5
消防車台数 (台)	12
消防ポンプ数 (台)	3
消防団員数 (人)	76

#### ■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	4
土砂災害	4
地震	4
津波	10
福祉避難所	4
津波避難ビル	9
津波警報サイレン	1

#### ■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	土崎消防署
管轄警察署	秋田臨港警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	15
最寄りの救急告示病院	秋田厚生医療センター
自主防災組織数	31

### 自然災害時の危険要素

土崎小学校区では、河川の氾濫による洪水浸水の危険性は想定されていない。ただし、地形的に低平であるため、大雨の際の内水氾濫による浸水の発生には留意が必要である。

土砂災害の危険性は指摘されていない。

地震動については、旧雄物川沿いの一部 (国道 7 号線以西) を除いてほぼ同程度の揺れやすさとなっている。津波については、ほぼ全域に浸水の危険性があると想定されており、特に国道 7 号線以西では浸水深が 5 m を超える (2 階以上までの浸水) とされている。

### 防災上の課題と対策

1983 年日本海中部地震では、旧雄物川沿いの地域を中心に地盤の液状化が発生し護岸に被害が発生した。秋田港で 3m 程度の津波が観測されたものの浸水被害はなかった。今後、日本海で大地震が発生した場合、津波による被害が発生することも考えられる。

学校区内には津波避難ビルなどの避難施設や多数の医療機関があり、防災・救急関係施設は充実している。人口は漸減傾向にあり、北部地区の人口集中地区としては 65 歳以上の高齢者の比率が高い。特に 70 歳以上の人口が突出して多くなっており、災害時の避難等において住民相互の協力が必要である。

土崎中央地区では建物が密集しており、火災が発生した場合には、延焼しやすいことが懸念される。火災の延焼を防

ぐためには、出火の防止、初期消火に住民の果たす役割が大きい。住民には地震時のゆれによる被害と津波による被害の両面の危険性について正しい知識と防災意識が保てるよう働きかけを継続することが重要であり、平時の住民参加型の防災訓練等を有効活用することが必要である。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
雇用促進住宅 土崎宿舎 1号棟から3号棟まで〔3階から5階までの階段と踊り場〕	x	x	x	x	○	x	90人
ホテルルートイン秋田土崎 （4階から8階までの通路）	x	x	x	x	○	x	850人
社会福祉法人はまなす会 ケアハウス土崎3階から8階までのホール、屋外階段と踊り場	x	x	x	x	○	x	500人
医療法人正和会五十嵐記念 病院在宅総合ケアセンター （病院屋上、ケアセンター屋上）	x	x	x	x	○	x	500人
土崎聖書キリスト教会 グローリアチャペル（3階ホールと和室）	x	x	x	x	○	x	150人
土崎マンション（3階から4階までの通路）	x	x	x	x	○	x	130人
医療法人運忠会土崎病院 介護老人保健施設なぎさ（病院外来棟屋上、6階ベランダ）	x	x	x	x	○	x	580人
チャレンジオフィスあきた （3階〔大小多目的室、通路〕、屋上）	x	x	x	x	○	x	970人
土崎小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	2,104人
土崎小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	319人
土崎小学校（校舎3階教室と廊下および屋上）	x	x	x	x	○	x	2,680人
琴平第二街区公園	x	○	○	○	○	x	津波 1,800人 津波以外 900人
古川町街区公園（土崎市民グラウンド）	x	○	○	○	x	x	4,700人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
ショートステイひなた	土崎港中央三丁目 4-39	018-880-5670
デイサービスセンターひなた	土崎港中央三丁目 4-39	018-880-5670
ケアハウス土崎	土崎港中央三丁目 4-40	018-845-4575
特別養護老人ホームひなた	土崎港西三丁目 11-5	018-816-0377

(続く)

## 津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
チャレンジオフィスあきた	土崎港西三丁目 9 番 15 号	・ 3 階大、小多目的室 ・ 3 階通路、屋上	970 人
雇用促進住宅 土崎宿舎	土崎港西二丁目 12 番 48 号	・ 1 号棟 3 階から 5 階までの階段・踊り場 ・ 2 号棟・ 3 号棟 3 階から 5 階までの階段・踊り場	90 人
社会福祉法人はまなす会 ケアハウス土崎	土崎港中央三丁目 4 番 40 号	・ 3 階から 8 階までのホール ・ 3 階から 8 階までの屋外階段、踊り場	500 人
医療法人正和会五十嵐記念 病院在宅総合ケアセンター	土崎港中央一丁目 17 番 23 号	・ 病院屋上 ・ ケアセンター屋上	500 人
土崎聖書キリスト教会 グローリアチャペル	土崎港中央六丁目 16 番 34 号	・ 3 階ホール ・ 3 階和室	150 人
土崎マンション	土崎港中央六丁目 16 番 17 号	・ 3 階および 4 階の通路	130 人
秋田市立土崎小学校	土崎港中央三丁目 1 番 78 号	・ 校舎 3 階教室、廊下 ・ 屋上	2,680 人
医療法人運忠会土崎病院 介護老人保健施設なぎさ	土崎港中央四丁目 4 番 26 号	・ 病院外来棟屋上 ・ 介護老人保健施設屋上、6 階ベランダ	580 人
ホテルルートイン秋田土崎	土崎港西二丁目 12 番 30 号	・ 4 階～ 8 階通路	850 人

## 津波警報サイレン

施設	所在地
土崎消防署	土崎港西四丁目 2 番 10 号